

令和6年9月30日

令和6年度「全国学力・学習状況調査」の結果について【小学校】

宇都宮市教育委員会

各種学力調査を有効に活用して児童生徒の学力向上を図るためには、調査結果を分析して児童生徒の学力や学習状況等についての成果や課題を明らかにした上で、課題の解決に向けて学習指導の工夫・改善を図ることや実効性のある取組を見いだし実践することが大切です。

こうした考えから、令和6年度「全国学力・学習状況調査」における本市立小学校児童の学力や学習状況の概要、指導の改善策などをまとめました。

参考：「全国学力・学習状況調査」について

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善（学力向上PDCA）サイクルを確立する。

2 調査期日・調査対象 令和6年4月18日（木） 第6学年



3 調査内容

(1) 教科に関する調査

- ① 国語
- ② 算数

(2) 質問調査

- ① 児童に対する調査 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関すること
- ② 学校に対する調査 指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関すること

4 本市の参加状況

- (1) 学校数 宇都宮市立小学校 69校（69校中）
- (2) 児童数 国語 4,133人 算数 4,135人

5 留意事項

(1) 調査結果について

本調査は対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数の2教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部分であることに留意することが必要となる。

(2) 教科に関する調査について

- ① 調査結果のデータについては、本市の傾向等を分かりやすく示すために、教科全体及び分類・区分別の平均正答率、正答数度数分布を示した。
- ② 平均正答率等の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「傾向と課題」「指導の工夫・改善」等の分析を併せて記載した。
 - ・ 「平均正答率」、「正答数の分布」について状況を記載した。
 - ・ 「傾向と課題」は、分類・区分ごとに、良好な状況や課題が見られた設問の状況を記載した。
 - ・ 「指導の工夫・改善」は、調査結果に見られた課題を解決するため、今後の学習指導において参考となるポイントを分類・区分ごとに記載した。

(3) 質問調査について

本市の推進する教育施策と関連の深い質問及び全国との比較において本市の特徴が見られる質問等を取り上げて、調査結果と傾向、考察を示すとともに、クロス集計結果も踏まえた指導の留意点、改善のポイントを併せて記載した。

1 小学校第6学年 国語

平均正答率

(%)

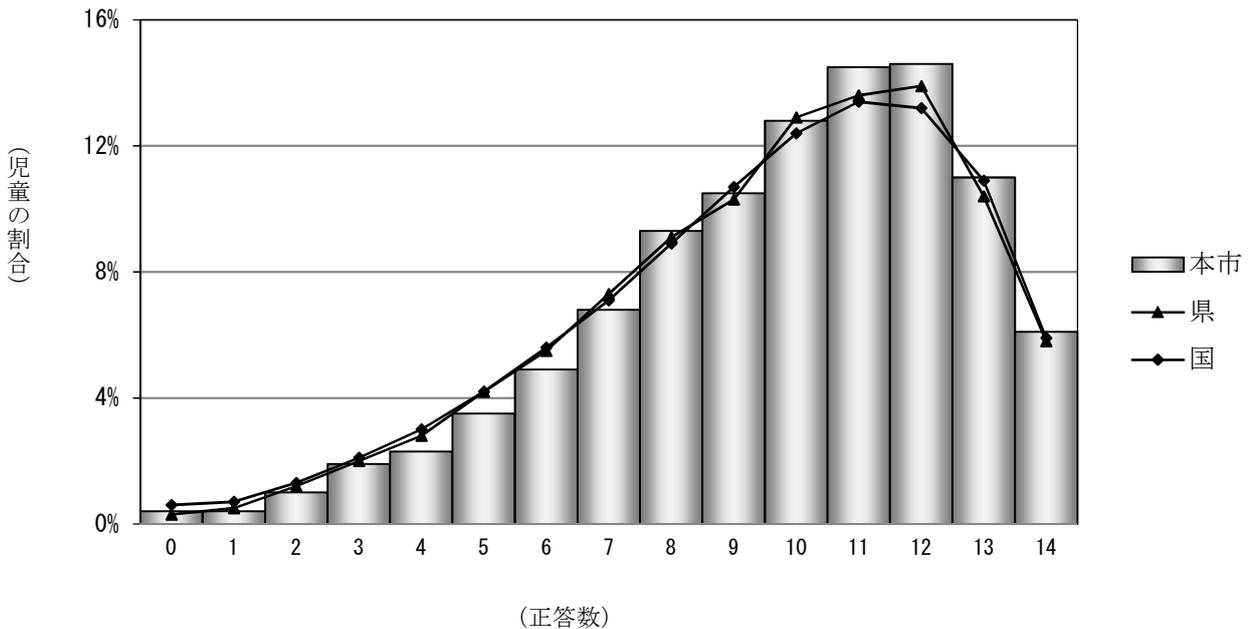
	宇都宮市（市立） a	栃木県（公立）	全国（公立） b	差 a - b
国語	69.3	68	67.7	1.6

分類・区別平均正答率

(%)

分類		区分	宇都宮市 (a)	栃木県	全国 (b)	差 (a-b)
学習指導 要領の 内容	知識 及び 技能	(1)言葉の特徴や使い方に関する事項	65.7	64.2	64.4	1.3
		(2)情報の扱い方に関する事項	87.6	86.6	86.9	0.7
		(3)我が国の言語文化に関する事項	78.6	77.6	74.6	4.0
	思考力, 判断力, 表現力等	A 話すこと・聞くこと	59.9	58.6	59.8	0.1
		B 書くこと	71.8	70.3	68.4	3.4
		C 読むこと	72.9	72.2	70.7	2.2
評価の観点	知識・技能	71.5	70.2	69.8	1.7	
	思考・判断・表現	67.8	66.6	66.0	1.8	
	主体的に学習に取り組む態度					

正答数度数分布



傾向と課題

○…良好な状況が見られるもの ●…課題が見られるもの

言葉の特徴や使い方に関する事項 (全国平均との差 1.3ポイント)

- 文の中における主語として適切なものを選ぶ設問の正答率は64.9%で、全国平均を2.6ポイント上回る。主語と述語との関係を捉えることに良好な状況が見られる。

情報の扱い方に関する事項 (全国平均との差 0.7ポイント)

- メモの書き表し方の説明として適切なものを選ぶ設問の正答率は87.6%で、全国平均を0.7ポイント上回る。図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことに良好な状況が見られる。

我が国の言語文化に関する事項 (全国平均との差 4.0ポイント)

- 読書記録から気付いたことをまとめた文として適切なものを選ぶ設問の正答率は78.6%で、全国平均を4.0ポイント上回る。読書が自分の考えを広げることに役立つことを理解することに良好な状況が見られる。

話すこと・聞くこと (全国平均との差 0.1ポイント)

- オンラインで交流する場面において、事前に整理しておいたメモがどのように役立ったか適切なものを選ぶ設問の正答率は65.4%で、全国平均を1.6ポイント上回る。目的に応じて、集めた材料を分類したり関係付けたりしながら伝える内容を検討することに良好な状況が見られる。

書くこと (全国平均との差 3.4ポイント)

- 報告文の続きを書く設問の正答率は59.3%で、全国平均を2.7ポイント上回る。目的や意図に応じて事実と感想、意見とを区別して書くことに良好な状況が見られる。
- 同設問において、解答類型から、自分の考えを書くことができなかった割合が32.8%であり、考えを形成して書くことに課題が見られる。

読むこと (全国平均との差 2.2ポイント)

- 人物像を想像する際に着目したことについて、正しいものを選ぶ設問の正答率は75.2%で、全国平均を2.7ポイント上回る。叙述を基に人物像を具体的に想像することに良好な状況が見られる。

指導の工夫・改善

言葉の特徴や使い方に関する事項

主語と述語との関係や修飾と被修飾との関係など文の構成に関して、更に理解を図るためには、多様な例文や児童の書いた文を取り上げ、語句相互の関係について意図的に発問することが有効である。また、文や文章の内容の理解だけでなく、表現する場合にも語句相互の関係に気を付けて文を組み立てることを意識させたい。

書くこと

「考えの形成」の指導については、資料などを読んで分かったことと、自分の考えや意見とを区別して書くことが必要であり、「このように」などの接続語を使ったり文末表現に気を付けたりしながら、事実と感想、意見とを区別して文章を書く経験を積むことが重要である。

また、「考えの形成」を促す指導として、自分自身との関わりの中で考えさせることが有効である。事実や調べたことについて情報を整理するとともに、意図的な発問やコーディネートにより、自分の経験や既存の知識と照らし合わせながら考えさせる必要がある。

なお、「書く」ことについては、「題材の設定」「情報の収集」「内容の検討」「構成の検討」「考えの形成」「記述」「推敲」「共有」の学習過程があり、これらの学習過程を丁寧に踏まえながら段階的に書かせることが大切である。また、児童がどの学習過程でつまづいているかを把握し、学習過程に応じて個別に手立てを講じることも有効である。

2 小学校第6学年 算数

平均正答率

(%)

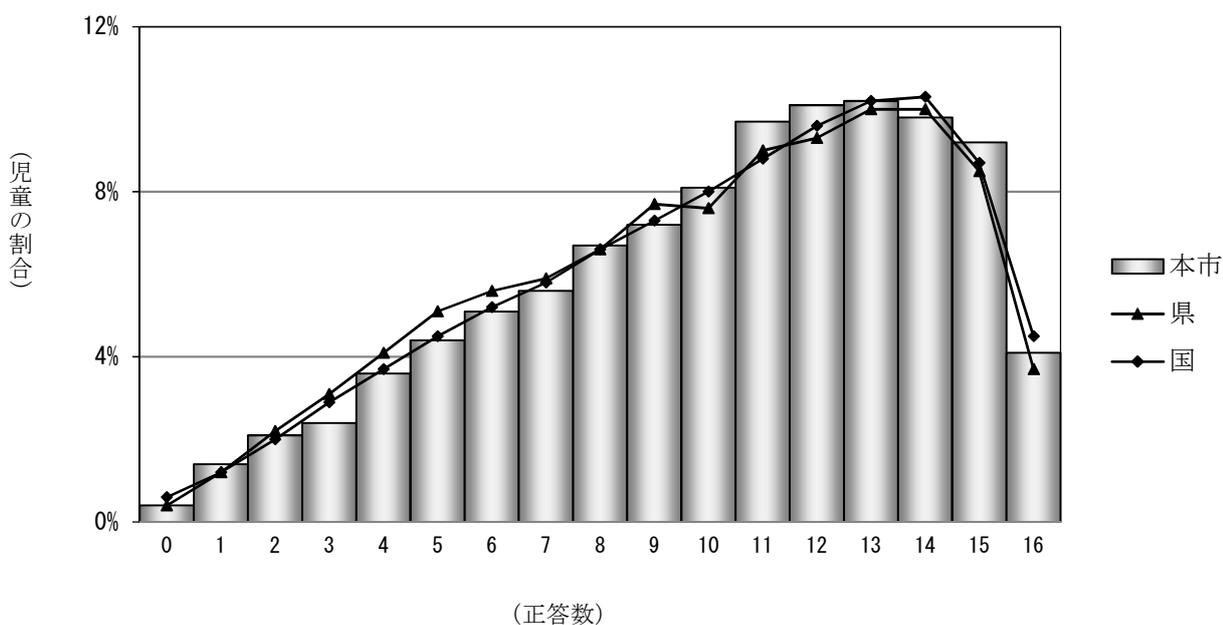
	宇都宮市 (市立) a	栃木県 (公立)	全国 (公立) b	差 a - b
算 数	63.6	62	63.4	0.2

分類・区分別平均正答率

(%)

分 類	区 分	宇都宮市 (a)	栃木県	全国 (b)	差 (a-b)
学習指導 要領の 領域	A 数と計算	66.7	64.7	66.0	0.7
	B 図形	66.9	66.3	66.3	0.6
	C 測定				
	C 変化と関係	49.6	48.7	51.7	△2.1
	D データの活用	62.9	61.5	61.8	1.1
評価の 観点	知識・技能	72.6	71.4	72.8	△0.2
	思考・判断・表現	52.2	50.7	51.4	0.8
	主体的に学習に取り組む態度				

正答数度数分布



傾向と課題

○…良好な状況が見られるもの ●…課題が見られるもの

数と計算 (全国平均との差 0.7ポイント)

- 350×2 を基にして 350×16 の積の求め方と答えを書く設問の平均正答率は 61.0% であり、全国平均を 4.1 ポイント上回る。計算に関して成り立つ性質を活用し、工夫して計算をすることに良好な状況が見られる。
- 二人が持っている折り紙の枚数を求める式を選択する設問の平均正答率は 59.6% であり、全国平均を 2.5 ポイント下回る。数量の関係をつかみにくい問題の解決において、問題場面の数量の関係を捉え、式に表すことに課題が見られる。

図形 (全国平均との差 0.6ポイント)

- 五角柱の面の数とその理由を説明する設問の平均正答率は 73.2% であり、全国平均を 1.2 ポイント上回る。向かい合う合同な五角形が底面で、底面に垂直な長方形が側面であることを捉え、角柱の底面と側面に着目して、面の数やその理由を言葉と数を用いて記述することに良好な状況が見られる。

変化と関係 (全国平均との差 -2.1ポイント)

- 3分間で 180m を歩くことを基に、1800m を歩くのにかかる時間を求める設問の平均正答率は 68.8% であり、全国平均を 1.2 ポイント下回るが、「変化と関係」領域の中では正答率が最も高い。速さが一定であることを基に、道のりと時間の関係について考察することに良好な状況が見られる。
- 家から図書館までの速さを求める設問の平均正答率は 51.9% であり、全国平均を 2.2 ポイント下回る。問題の場面から、道のりと時間を読み取り、それらを基にして速さを求めるという速さの意味理解に課題が見られる。

データの活用 (全国平均との差 1.1ポイント)

- 2つの折れ線グラフから、桜の開花日の月について、回数の違いを書く平均正答率は 46.9% であり、全国平均を 2.9 ポイント上回る。折れ線グラフから必要な数値を読み取り、条件にあてはまることを言葉と数を用いて記述することに良好な状況が見られる。

指導の工夫・改善

数と計算

数量の関係をつかみにくい問題の解決においては、図などを用いて、数量の関係を整理する活動が考えられる。その際、問題で分かることから図に表し、数や図を書き加えていくことで、問題場面の数量関係を自ら捉えることが有効である。また、図と問題文のそれぞれの数量の関係を比較して捉え、図を基にして式に表すことができるようにすることが大切である。

変化と関係

速さなどの単位量当たりの大きさの学習においては、異種の二つの量の割合として捉えられる数量の比べ方や表し方を十分理解できるようにすることが必要である。この意味理解に基づいて、目的に応じて速さなどを考察する方法を工夫し、日常の事象の解決に活用できるようにすることが重要である。

例えば、日常の具体的な場面に対応させながら、二つの数量関係に着目し変化の規則性を捉え、その変化の特徴を用いて問題を解決していく学習が有効である。さらに、答えが得られた後には、日常の事象に戻して答えの意味を考え、必要に応じて見直すことができるようにすることも大切である。

3 小学校質問調査

【児童質問調査の状況】調査結果（全63問から抜粋）

- ・ 本市の推進する取組と関連のあるもの、又は、全国平均と5ポイント以上差があり本市児童の特徴を表すものを取り上げた。
- ・ 肯定的な回答の割合は「当てはまる（している）」、「どちらかといえば当てはまる（している）」等と回答した割合の合計である。（* それ以外の選択肢等の場合）

No.	質問の内容	肯定的な回答の割合	
		宇都宮市	全国平均との差
1	5年生までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか	83.4%	1.5
2	学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか	89.5%	3.2
3	授業で学んだことを、次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりすることができますか	86.9%	3.2
4	5年生までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していましたか	67.5%	△0.1
5	5年生までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか *週3回以上	63.8%	5.7
6	5年生までの学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を活用することについて、次のことはあなたにどれくらい当てはまりますか ・自分の考えや意見を分かりやすく伝えることができる	83.3%	4.1
7	5年生までの学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を活用することについて、次のことはあなたにどれくらい当てはまりますか ・友達と考えを共有したり比べたりしやすくなる	89.9%	3.8
8	学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、PC・タブレットなどのICT機器を、勉強のために使っていますか（遊びなどの目的に使う時間は除く） *30分以上	50.5%	6.3
9	自分には、よいところがあると思いますか	87.4%	3.3
10	将来の夢や目標を持っていますか	85.4%	3.0
11	健康に過ごすために、授業で学習したことや保健室の先生などから教えられたことを、普段の生活に役立てていますか	87.5%	5.2
12	先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか	94.3%	4.4
13	困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか	74.8%	7.7
14	自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか	78.5%	2.7
15	地域や社会をよくするために何かしたいと思いますか	86.1%	2.6

傾向と考察

○…良好な状況が見られるもの ●…課題が見られるもの

授業や学習について (No. 1～4)

- No. 1, 3の肯定的回答の割合は、それぞれ全国平均より1.5ポイント、3.2ポイント上回っている。各学校においては、児童が学習活動に興味・関心を持つことができるような学習課題の提示や、自らの学びを振り返って次につなげることができるような時間の設定など、主体的な学びの視点からの授業改善が進められているものと考えられる。
- No. 2の肯定的回答の割合は、全国平均より3.2ポイント上回っている。各学校においては、児童同士が目標を共有したり、協働して解決方法を話し合ったりする活動を充実させるなど、対話的な学びの視点からの授業改善が進められているものと考えられる。
- No. 4の肯定的回答の割合は、全国平均を0.1ポイント下回っている。発表の機会を確保するとともに、自分の考えが伝わりやすくなるようまとめ方や伝え方の指導を継続していく必要があるものと考えられる。

ICT機器を活用した学習状況について (No. 5～8)

- No. 5について、週3回以上授業で使用していると回答している児童の割合は、全国平均を5.7ポイント上回っている。No. 6, 7の肯定的回答の割合は、それぞれ全国平均より4.1ポイント、3.8ポイント上回っている。各学校においては、1人1台端末の活用が推進されるとともに、学習活動の中での効果的な活用を踏まえた授業の工夫改善が進められているものと考えられる。

自分自身のことについて (No. 9～11)

- No. 9, 10の肯定的回答の割合は、それぞれ全国平均を3.3ポイント、3.0ポイント上回っている。各学校においては、特色ある教育活動や授業の工夫改善が進められていることにより、様々な活動や経験を通して、自己肯定感や自己有用感が育成されているものと考えられる。

周囲とのかかわりについて (No. 12～15)

- No. 12, 13の肯定的回答の割合は、それぞれ全国平均を4.4ポイント、7.7ポイント上回っている。各学校においては、安心感をもって学校生活を送れるよう、教職員が日常的に児童とかかわりながら児童理解を深め、信頼関係を構築することで、効果的に教育活動が進められているものと考えられる。

【学校質問調査の状況】

調査結果（全76問から抜粋）

- ・ 本市の推進する取組と関連のあるもの、又は、全国平均と5ポイント以上差があり本市の特徴を表すものを取り上げた。
- ・ 肯定的な回答の割合は「行った」、「どちらかといえば行った」等と回答した割合の合計である。

（* それ以外の選択肢等の場合）

No.	質問の内容	肯定的な回答の割合	
		宇都宮市	全国平均との差
1	指導計画の作成に当たっては、各教科等の教育内容を相互の関係で捉え、学校の教育目標を踏まえた横断的な視点で、その目標の達成に必要な教育の内容を組織的に配列していますか	100%	2.7
2	調査対象学年の児童は、授業中の私語が少なく、落ち着いていると思いますか	92.7%	7.2
3	調査対象学年の児童は、授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切に、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいると思いますか	97.1%	3.5
4	調査対象学年の児童に対して、総合的な学習の時間において、課題の設定からまとめ・表現に至る探究の過程を意識した指導をしていますか	95.7%	3.8
5	個々の教員が自らの専門性を高めるため、校外の各教科等の教育に関する研究会等に定期的・継続的に参加していますか（オンラインでの参加を含む）	94.2%	7.8
6	授業研究や事例研究等、実践的な研修を行っていますか	100%	1.4
7	全国学力・学習状況調査の結果を地方公共団体における独自の学力調査の結果と併せて分析し、具体的な教育指導の改善や指導計画等への反映を行っていますか	98.6%	5.8
8	令和5年度全国学力・学習状況調査の自校の結果について、保護者や地域の人たちに対して公表や説明をどの程度行いましたか。（学校のホームページや学校だよりなどへの掲載、保護者会等での説明を含む）	100%	10.5
9	前年度までに、近隣等の中学校と、教科の教育課程の接続や、教科に関する共通の目標設定等、教育課程に関する共通の取組を行いましたか	81.1%	17.1
10	コミュニティ・スクールや地域学校協働活動等の取組によって、学校と地域や保護者との相互理解は深まりましたか	92.7%	3.8
11	調査対象学年の児童に対して、前年度までに、児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、授業でどの程度活用しましたか *週3回以上	98.5%	5.3
12	児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどの端末を、どの程度家庭で利用できるようにしていますか	100%	13.6

傾向と考察

○…良好な状況が見られるもの ●…課題が見られるもの

授業中の指導や児童の学習状況について (No. 1～4)

- No.1の肯定的回答の割合は100%であり、全国平均より2.7ポイント上回っている。各学においては、教育目標の実現に向けた取組が行われ、児童に必要な資質・能力を育成するための指導が、計画的・組織的に推進されているものと考えられる。
- No.2の肯定的回答の割合は、全国平均より7.2ポイント上回っている。各学校においては、学校全体で話の聞き方や発言の仕方などの基本的な学習態度を育てる指導が進められているものと考えられる。
- No.3の肯定的回答の割合は、全国平均より3.5ポイント上回っている。児童同士が協働して解決方法を話し合う活動を充実させるなど、対話的な学びの視点からの教育内容や指導方法の改善及び充実が図られているものと考えられる。
- No.4の肯定的な回答の割合は、全国平均より3.8ポイント上回っている。各学校においては、探究的な学習の中で、児童が自ら進んで学習に取り組みながら、課題設定能力や情報収集能力などを高めることができるよう学習課題や学習活動を工夫するなど、主体的な学びの視点から、学習指導の充実が図られているものと考えられる。

研修など教職員の資質向上に関する状況について (No.5, 6)

- No.5の肯定的回答の割合は、全国平均より7.8ポイント上回っている。各学校において、授業力や学級経営力等の資質・能力の向上を目指した取組が推進されているものと考えられる。

学力・学習状況調査結果の活用について (No.7, 8)

- No.7, 8の肯定的回答の割合は、それぞれ全国平均より5.8ポイント、10.5ポイント上回っている。自校の調査結果について分析を進め、学校全体で成果や課題を共有するとともに、保護者等への公表にも取り組むなど、教育活動のさらなる充実のために活用する取組が推進されているものと考えられる。

本市の推進する取組等について (No.9～12)

- No.9の肯定的回答の割合は、全国平均より17.1ポイント高く、上回り方が大きい。小・中学校が連携を図り、義務教育9年間を見通した系統的な指導による確かな学力を育む教育が推進されているものと考えられる。
- No.10の肯定的回答の割合は、全国平均より3.8ポイント上回っている。各学校において、魅力ある学校づくり地域協議会との連携強化を図るなど、保護者や地域の方々と連携・協働した学校づくりが推進されているものと考えられる。
- No.11, 12の肯定的回答の割合はそれぞれ全国平均より5.3ポイント、13.6ポイント上回っている。各学校において、1人1台端末を効果的に活用することができるよう、学習活動の充実に向けた指導が推進されているものと考えられる。

【児童質問調査と教科の正答率のクロス集計の状況】

- ・ 学力層を上位から順に 25%ずつ、4層（A－D層）に分け、各層の肯定的な回答の割合を基に意識と平均正答率との相関を分析している。
- ・ A－D層間の開きの大きい質問は、正答率の高い児童ほど、肯定的に回答している傾向が見られる質問であり、平均正答率との関係があるものと考えられる。

＜A－D層の差が 10 ポイント以上のものから抜粋＞

No.	質問の内容	宇都宮市	
		A－D層の差	肯定的な回答割合
1	5年生までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか	26.1	67.5%
2	総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか	20.4	84.6%
3	5年生までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか	20.4	83.4%
4	算数の問題が解けたとき、別の解き方を考えようとしていますか	19.5	63.5%
5	あなたの家には、およそどれくらいの本がありますか（雑誌、新聞、教科書は除く） *100冊以上	19.0	40.2%
6	算数の問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考えますか	18.5	84.9%
7	分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか	16.0	82.0%
8	5年生までに受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか	15.2	81.9%
9	学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか	14.7	81.9%
10	国語の授業で、目的に応じて、簡単に書いたり詳しく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように工夫して文章を書いていますか	14.1	85.0%
11	算数の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考えますか	13.9	79.2%
12	毎日、同じくらいのと時刻に寝ていますか	13.7	84.3%
13	国語の授業で、違う点や似ている点を意識したり、図で示したりしながら、情報を整理していますか	13.6	82.0%
14	5年生までに受けた授業は、自分にあつた教え方、教材、学習時間などになっていましたか	12.6	88.2%
15	学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか	12.2	89.5%

傾向と考察及び指導の留意点

- 正答率が高い児童の方が、以下の点について肯定的に回答している傾向が見られる。
- 指導の留意点等は、「➡」以下に示した。

授業での学習について

- ・ 課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる。
- ・ 分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫している。
- ・ 学習内容について、分かった点やよく分からなかった点を見直し、次の学習につなげている。
- ・ 話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりしている。

➡ 個々の児童の学習状況を丁寧に見取り、個に応じた適切な指導・支援を行いながら、発問の仕方や学習活動を工夫するなどして、児童がじっくりと考え、まとめ、振り返る時間を確保するとともに、授業の中でつぶやきを取り上げたり、他者と自分の意見や学び方の比較を促したりするなど、教師のコーディネート力が求められる。

言語能力・情報活用能力の育成について

- ・ 自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表している。
- ・ 総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる。
- ・ 各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめている。

➡ 情報を収集し、読み取り、まとめる活動や文章の構想、個々の考えや意見の集約、発表等の活動については、1人1台端末を有効に活用した協働的な学習を推進するとともに、まとめたり、書いたりする課題などについては、これまでの実践とICT機器との最適な組み合わせを十分に検討するなど、言語能力や情報活用能力の育成に係る取組の実を図ることが必要である。

各教科の見方・考え方を働かせることについて

- ・ 国語の授業で、目的に応じて、簡単に書いたり詳しく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように工夫して文章を書いている。
- ・ 国語の授業で、違う点や似ている点を意識したり、図で示したりしながら、情報を整理している。
- ・ 算数の問題が解けたとき、別の解き方を考えようとしている。
- ・ 算数の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考えている。

➡ 教科等の物事を捉える視点や考え方、思考の仕方を意識させながら、資質・能力を身に付けさせることができるよう、教材や課題設定、発問等により意図的に働きかけをするなど、各教科等の特質を踏まえた上での指導を重ねることが重要である。